

鹿児島県における令和6年産でん粉原料用 さつまいもの生産状況などについて

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会

【要約】

鹿児島県における令和6年産さつまいもは、作付面積は減少したものの、サツマイモ^{もどぐされびょう}基腐病の抵抗性品種への切り替え、防除対策の実践などの取り組みが進んだことから、10アール当たりの収量が増加し、生産量は21万8300トン（前年産比1.3%増）で、このうちでん粉原料用さつまいもの生産量は3万6800トン（同6.8%減）であった。

はじめに

鹿児島県におけるさつまいもは、本県普通畑の約15%に作付けされており、夏場の土地利用型作物として、輪作体系や防災営農の面から重要な作物として位置付けられている。また、でん粉や焼酎などの原料用をはじめ、青果や菓子（加工）用として幅広く利用されており、地域経済を支える面からも重要な作物である。

本稿では、令和6年産原料用さつまいもの生産状況やでん粉工場の原料確保、当協議会における生産振興に向けた取り組みについて報告する。

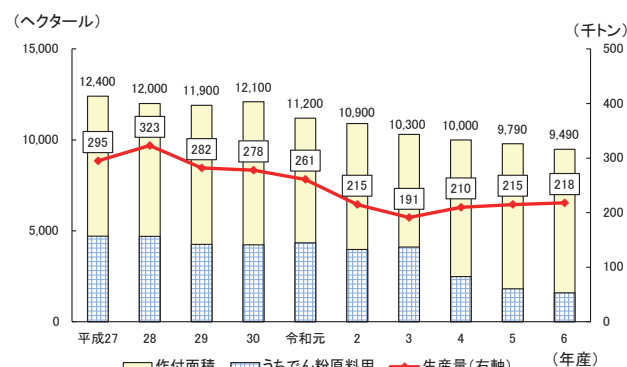
1 令和6年産さつまいもの生産状況

（1）作付面積

令和6年産の作付面積は、農業者の高齢化に伴う労働力不足やサツマイモ基腐病（以下「基腐病」という）発生の影響などにより、前年産より300ヘクタール減少し、9490ヘクタール（前年産比3.1%減）（図1）となったものの、全国の作付面積3万1800ヘクタールのうち約3割を占め、全国第1位であった。

このうちでん粉原料用の作付けは、県全体の約17%を占める1600ヘクタール（同12.1%減）であった。

図1 鹿児島県におけるさつまいもの作付面積、生産量の推移

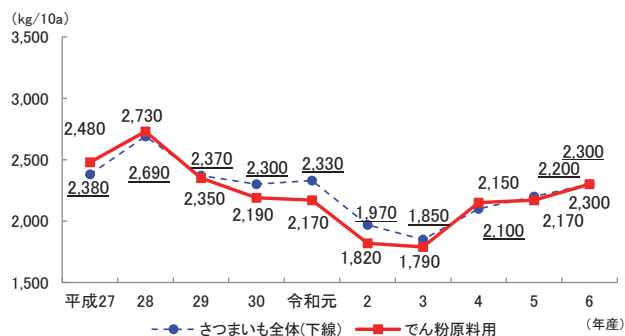


資料：農林水産省「作物統計」

（2）生産量

令和6年産のさつまいもは、作付面積が減少したものの、基腐病の抵抗性品種への切り替えや防除対策の実践など、ほ場に基腐病菌を「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」という3つの対策について総合的な取り組みが進んだことから被害が減少し、また、おおむね天候に恵まれたこともあり、いもの肥大が順調に進み、10アール当たりの収量が2300キログラム（前年産比6.0%増）となったことから、生産量は21万8300トン（同1.3%増）となった（図2）。

図2 鹿児島県におけるさつまいもの10アール当たり収量の推移



資料：農林水産省「作物統計」

(3) 用途別生産量

鹿児島県におけるさつまいもの用途は、でん粉原料用と焼酎原料用が全体の74%を占めており、令和6年産におけるでん粉原料用の生産量は、全体の17%となる3万6800トン（前年産比6.8%減）、焼酎原料用は同じく57%となる12万3995トン（同13.8%増）となった（表）。

表 鹿児島県におけるさつまいもの用途別作付面積および生産量

（単位：ha、トン）

区分 年産	でん粉原料用		焼酎原料用		その他		合計	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
R5	1,820	39,500	4,782	108,962	3,188	66,938	9,790	215,400
R6 (構成比)	1,600 (17%)	36,800 (17%)	5,175 (55%)	123,995 (57%)	2,715 (29%)	57,505 (26%)	9,490 (100%)	218,300 (100%)
R6/R5 (増減比、%)	▲ 12.1	▲ 6.8	8.2	13.8	▲ 14.8	▲ 14.1	▲ 3.1	1.3

資料：農林水産省「作物統計」、鹿児島県調べ

注：四捨五入の関係により、構成比の合計が100%にならないものもある。

2 でん粉工場の原料確保

鹿児島県内のさつまいもでん粉工場は、主産地である南薩、大隅、種子島地域を中心に、農協系2工場、民間11工場の計13工場が操業している。令和6年産のさつまいもの生産量は、前年産から1.3%増加したものの、でん粉原料用さつまいもは、前年産と比較して6.8%減少し、計画数量の確保には至っていない状況である。

これは、他の用途におけるさつまいもの販売価格高騰により、でん粉原料用からその他の用途向けに移行したことなどが要因と考えられ、でん粉工場では安定的な原料確保が課題となっている。

3 生産振興に向けた取り組み

(1) 用途別原料確保対策

本協議会では、でん粉工場や焼酎メーカーに対し次年産のさつまいもの需要量調査を行い、令和7年2月に「地域別の原料用さつまいもの需要希望量」として取りまとめ、地域段階において情報共有し、需要に見合った計画的な生産を推進している。

また、「原料用さつまいもの用途別確保方針」を策定し、同方針に基づき、栽培面積の拡大や契約栽培・契約取引の推進に取り組んでいる。

この他、でん粉原料用として出荷を予定している生産者に対しては、独立行政法人農畜産業振興機構鹿児島事務所の協力のもと、同機構が実施するでん粉原料用いも交付金による支援（図3）などを周知しており、令和8年産についても同様の取り組みを行うこととしている。

図3 でん粉原料用いも交付金による支援に係るチラシ

令和7年産でん粉原料用さつまいもの 生産・出荷を予定される皆様へ

国は、でん粉原料用さつまいも生産者を支援するため、でん粉原料用いも交付金による支援を行っています。支援を受けるためには、
一定の要件を満たす生産者であり
でん粉工場(注)と事前の売渡契約を結んだ上で
毎年7月末までに(独)農畜産業振興機構(atic)に申請する
 手続きが必要です。(注)JAのでん粉工場に出荷する場合は、JAと売渡契約を結びます。

1 生産者に求められる要件

区分	交付金の対象者要件
B-1	認定農業者、認定新規就農者、特定農業団体 又はこれと同様な組織 (面積要件なし)
B-2	収穫面積(注1)の合計が、0.5ha以上の生産者(法人含む)、3.5ha以上の協業組織
B-3	基幹作業(注2)面積の合計が、3.5ha以上の共同利用組織(注3)の構成員及び組合員
B-4	B-1、B-2の生産者又は基幹作業面積の合計が3.5ha以上の受託組織やサービス事業体に基幹作業を委託している者

(注1) 収穫面積は、作付面積(収穫部分に限る)と収穫作業の受託面積の合計から、収穫作業の委託面積を引いた面積
 (注2) 基幹作業は、育苗、耕起・整地、畝立て・マルチ、種付け、防除、収穫(掘り起こし・つる切り)
 (注3) B-3の共同利用組織は、基幹作業にかかる管理者(オペレーター)を定めている組織
 (注4) B-3、B-4の基幹作業を共同で行う場合や委託する場合は、機械の共同利用や委託に供した実面積(最大の基幹作業の面積)の割合が、収穫面積の2分の1以上

2 売渡契約の締結

でん粉工場と売渡契約を結んでいないと、交付金の対象になりません。
 ※詳しくは、申請の代理人であるでん粉工場やJAにお問い合わせください。
契約に基づき、計画的に出荷を行いましょう!

3 申し込みや出荷の際の注意点

(申し込み時の注意点)
 ・ 売渡契約書及び要件審査申請書には、**でん粉原料用さつまいもとして出荷を予定されているすべての品種名を正確にご記入ください。**
 ※ 品種によっては、交付金単価が異なる場合があります。

(出荷の際の注意点)
 ・ **申し込みをした品種名であることを確認の上、出荷してください。**
 ・ **申し込み時に予定していなかった品種を出荷される際には、出荷の前にでん粉工場やJAにご相談ください。**

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会(事務局:県庁農産園芸課)令和7年3月作成
 資料:鹿児島県農政部

4 生産者の承継

申請手続き後に、生産者の方が亡くなったり、経営から引退されたりする場合、他の方に経営の全部又は一部を承継する際には手続きが必要です。このような場合には、**速やかに、でん粉工場やJAにご連絡ください。**

なお、毎年9～10月頃に生産者の皆様にaticから、通知はがき「対象でん粉原料用いも生産者要件審査結果通知書(右イメージ参照)」が送付されてきますので、内容に問題がないか、必ずご確認ください。

通知はがきイメージ

【参考】令和7年産でん粉原料用さつまいもの生産者手取り参考価格

<参考価格>

区分	国からの交付金(免税事業者の場合)	国からの交付金(課税事業者の場合)
国からの交付金(免税事業者の場合)	34,350円/原料トン (1,288円/俵 [※])	33,310円/原料トン
国からの交付金(課税事業者の場合)	33,310円/原料トン	33,310円/原料トン
でん粉工場が、でん粉販売収入から支払う価格(参考)	15,884円/原料トン (596円/俵 [※])	15,884円/原料トン (596円/俵 [※])

(注) 交付金、取引価格は、さつまいもの品種によって異なる場合があります。

さつまいもでん粉を製造しているのは**鹿児島県のみです!**
さつまいもの生産量を確保してさつまいもでん粉を守りましょう!

でん粉原料用さつまいもが不足しています

でん粉は様々な用途に使用されています

近年、でん粉原料用さつまいもの**面積・生産量が減少し、でん粉工場の経営は厳しい状況が続いています。**
 でん粉工場が存続し、今後も生産者が安心してさつまいも生産に取り組んでいくためには、でん粉工場への**原料供給量の増加が不可欠**です。

さつまいもでん粉は、**糖化製品**(清涼飲料等)や**菓子類**(スナック菓子や和菓子等)、**飼料**(春雨等)、**医薬品**(オブラート等)など様々な用途に用いられています。そのさつまいもでん粉が不足しています。

でん粉原料用さつまいもの生産量確保にご協力をお願いします!

(2) 基腐病対策

基腐病は、沖縄県に次いで、平成30年12月に本県で確認されて以降、令和7年9月末現在、36都道府県で発生しており、全国的に広がりを見せている。

鹿児島県では、基腐病対策を着実に推進していくため、令和4年1月に策定した「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」(以下「アクションプログラム」という)に基づき、ほ場に基腐

病菌を「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」

3つの対策を、関係機関・団体と一体となって総合的に推進している(図4、5)。

また、本協議会では、近年、一部のほ場で発生が見られている基腐病以外の腐敗症状やムツスジアシナガゾウムシなどの病害虫への対策について、生産者や関係機関へ周知を行ったところである(図6)。

図4 「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」3つの対策

《農業散布のみの実施など、単一的な対策ではなく『3つの対策』を総合的に実施する》

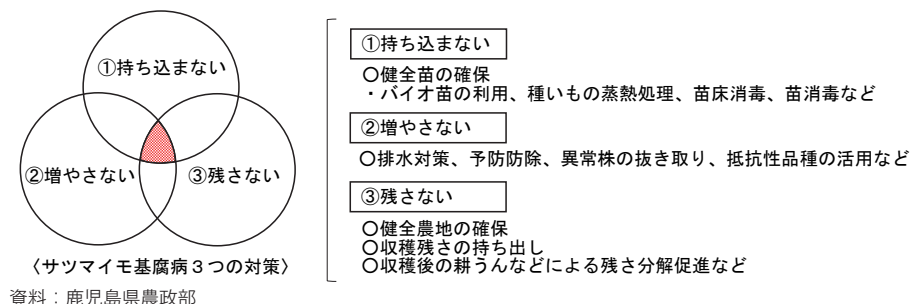


図5 基腐病対策の防除暦



(1) 苗消毒 ※1

農薬の名称	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期
ベンレート水和剤	基腐病, つる割病, 黒斑病	500~1000 倍	植付前
ベンレートT水和剤 20	基腐病, つる割病, 黒斑病	200 倍	植付前

(2) 土壌消毒 ※2

農薬の名称	有効成分	病害	線虫	害虫	雑草
バスアミド微粒剤	ダゾメット	○	○	○	○
クロールピクリン等	クロールピクリン	○	○	○	○

(3) 種いも消毒 ※3

農薬の名称	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	基腐病, 黒斑病	200 ~ 500 倍	貯蔵前	1

(4) ほ場での薬剤防除 ※5

農薬の名称	適用病害虫名	希釈倍数 又は使用量	10a 当たり 使用液量	使用時期 (使用方法)	使用 回数
フリントフロアブル 25	基腐病	250 倍 125 倍 10 倍	100 ℓ 50 ℓ 4 ℓ	植付前 (全面散布土壌混和)	1
フロンスайд粉剤	基腐病	40kg/10a	—	植付前 (全面土壌混和)	1
フロンスайдSC	基腐病	500m ℓ/10a	50~200 ℓ	植付前 (全面散布土壌混和又は全面土壌混和)	1
トリフミン水和剤	基腐病	1000 倍	100~300 ℓ	収穫 30 日前まで	2
アミスター 20 フロアブル	基腐病	2000 倍	100~300 ℓ	収穫前日まで	2
ジーファイン水和剤 (銅剤)	基腐病	1000 倍	200~300 ℓ	収穫 14 日前まで	3
Z ボルドー (銅剤)	基腐病, 斑点病	500 倍	100~300 ℓ	収穫前日まで	—
IC ボルドー 66D (銅剤)	基腐病	50 倍	100~300 ℓ	—	—

基腐病以外の腐敗防止のため害虫対策にも取り組みましょう！

害虫対策 (※4) に係る農薬については, 右のQRコードを読み取って参照してください。



※記載されている農薬は, 令和6年9月20日現在の登録内容に基づいています。
登録内容が変更されている場合があるので, 表示ラベルの記載内容を確認し, 適正に使用しましょう。
※農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業 (01020C)」, 「戦略的スマート農業技術等の開発・改良 (SA2-102N)」の成果を引用。

鹿児島県農政部農産園芸課・鹿児島県サツマイモ基腐病対策プロジェクトチーム

資料：鹿児島県農政部

図6 基腐病以外のさつまいもの腐敗対策のチラシ

基腐病以外のさつまいもの腐敗対策

近年、一部のほ場でサツマイモ基腐病以外の腐敗症状の発生が見られます。今後、原因菌の伝染経路や発生生態の解明、農業登録に向けた取組が進められますが、これまで県内で実施されたアンケート調査結果から、下記のこと分かっています。

腐敗症状が発生したほ場の主な特徴

- 排水性が悪い
- 植付時期が遅い

腐敗した部位に見られた主な原因菌

- 茎根腐細菌病
- フザリウムソラニー

※2つとも従来からある菌です。

取り組むべき対策

- サツマイモ基腐病対策と同様に、枕畝の除去、排水溝の設置、ほ場の均平化などの排水対策が重要です。国の農地耕作条件改善事業も活用しましょう。
- 5月中旬までに植え付けられるよう、育苗管理やほ場の準備をしましょう。
- さつまいもにできた害虫による傷口から菌が侵入・感染しないよう、植付前に土壌中の害虫(コガネムシ、ハリガネムシ、センチュウ等)を防除(裏面参照)し、食害を防ぎましょう。

鹿児島県さつまいも・でん粉対策協議会

ほ場にサツマイモ基腐病菌を… 持ち込まない! 増やさない! 残さない!

持ち込まない! 種いもの蒸熱消毒、バイオ苗の利用、苗床の土壌消毒、苗消毒など
増やさない! 排水対策、抵抗性品種の活用、異常株の除去、予防防除など
残さない! 収穫後の残さの持ち出し・早期耕うん、他作物との輪作など

重要! 3つの対策を総合的に!

害虫対策も忘れずに!

■ムツアシアシナガゾウムシ対策
被害が大きくなると収量にも影響します。ほ場をよく見回り、早期発見・防除に努めましょう。※使用農薬(コテツフロアブル、グレーシア乳剤、スミチオン乳剤等)

■基腐病以外の腐敗症状(裏面参照)の一因である土壌害虫対策

害虫	農薬名	10a使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ネコブセンチュウ	ネマクレーン粒剤	20kg	植付前	全面土壌混和	1回
	ビーラム粒剤	20kg	植付前	全面土壌混和	1回
ネグサレセンチュウ	ネマトリンエース粒剤	20~30kg	植付前	全面土壌混和	1回
コガネムシ類	ダントツ粒剤	6~9kg	植付前	全面処理土壌混和又は作業処理土壌混和	1回
ネコブセンチュウ	ネマクレーン粒剤	20kg	植付前	全面土壌混和	1回
ネグサレセンチュウ	ビーラム粒剤	20kg	植付前	全面土壌混和	1回
コガネムシ類	ダントツ粒剤	6~9kg	植付前	全面処理土壌混和又は作業処理土壌混和	1回
ハリガネムシ類	プリンスバイト	6kg	植付前又は植付時	全面処理土壌混和又は作業処理土壌混和	1回

※適用農薬の一部を記載しています。詳しくは、お近くの県地域振興局・支庁にお問い合わせください。

資料：鹿児島県農政部

おわりに

鹿児島県では、アクションプログラム策定後の令和4年産以降、生産者による基腐病対策の実践が進んだことにより、基腐病の発生は減少してきているが、基腐病以外の腐敗症状などの新たな病害虫対策も課題となっている。

また、10アール当たりの収量は近年増加傾向に

あるが、基腐病発生以前の水準まで回復しておらず、県内のでん粉工場の需要に対応し切れていない現状がある。

本協議会としては、引き続き、関係機関・団体と一体となって、基腐病などの病害虫対策や、多収で基腐病抵抗性の強い品種の普及などによる増産に向けた取り組みを推進し、生産者の安定的なさつまいも生産につながるよう取り組んでまいりたい。